

2023年2月10日（金）

老球の細道715号

名コーチとの出会い「世界のコーチ、トステイン・ロイブル」⑩

会津バスケットボール協会 室井 富仁

アメリカでのコーチ研修、福島国体でのコーチングスタッフなどの貴重な経験を重ねて、1997年4月に母校会津高校に転勤することになった。「母校を全国大会へ」が私の教員になる動機だったので、この年の決意はなみなみならぬものがあったことを記憶している。

この年鈴木新氏からの紹介であるタウン誌のインタビューを受けたことがある。その時に答えた主な内容は下記の通りである。

【(前略) 高校を卒業する時には、いつの日か母校のコーチになり、そこのコートにもう一度立って後輩たちにバスケットボール教えようという目標を持ちました。(中略)。私の在任中にインターハイ出場を果たすこと。少なくとも2回は行きたいですね(実際2回チャンスに恵まれたが3位で終わってしまった)。環境を嘆いてはいられません。現在の部員は私たちの高校時代と同じようにスーパースターこそいませんが、バスケットボールが大好きで、大きな夢を持ち、コツコツと練習を続け、努力することを好む選手はかなりいます。その選手たちを全国の舞台へ連れて行く夢に私は今わくわくしています】

当時の母校は県大会1, 2回戦止まりに低迷していたので、なんとか負け犬根性を払拭しなければならないと感じていた。それまで国体女子県選抜チームで全国のトップチームと試合をしてきた経験から、母校においても全国トップレベルチームと試合をすることが意識を高く持つために一番の近道だと考えた。それによって高いレベルのプレイとスキルが体験でき、トップチームの規律の文化を学ぶことができるからである。現在の実力が二流、三流でも、目指すは超一流であった。

弱小チームであったが赴任一年目から躊躇なしで強敵を求めて主に県外への遠征試合を実施した。宮城県においては白石工業の加藤先生、泉館山高校の志村先生(現Bリーグ仙台の社長志村氏の父)などにお世話になりながら、全国優勝した仙台高校や強豪東北学院高校などと何度も試合をさせてもらった。岩手県は金子力先生の盛岡南高校。新潟県は中越高校の金子誠先生のお世話で関東、北信越高校の強豪チームと試合を重ねた。後に全国優勝する新潟商業、東京八王子高校などとも善戦することができた。山形県では細谷先生の山形南高校にお世話になりデイフェンスの激しさなどを学ばせてもらった。そして最後に埼玉県ではアメリカコーチング研修に同行した大宮北高校の佐藤光壺先生にお世話になり、関東地区の強豪校やウインターカップ帰りの全国大会常連校とも練習試合をさせてもらった。

主に春休み、夏休みは宮城白石キャンプ、夏休みに新潟長岡で中越フェスティバル、冬休みは埼玉大宮遠征、そしてその他の休日を利用して山形をはじめ近県の優勝チームと練習試合を重ねた。その中で選手たちが最も喜んだのは大宮遠征だった。会津高校東京OB会が選手のために焼肉パーティーを催してくれたり、二泊三日目の最終日には東京に行ってウインターカップを観戦できるからである。ここからトステインとの出会いが始まる。(続)。